令和７年（2025 年）２月６日

実施計画書

Ⅰ　委託業務の内容

## １．基本情報

| | |
|---|---|
| 管理機関 | （管理機関名）<br>北海道教育委員会 |
| | （代表者職名）<br>教育長 |
| | （代表者氏名）<br>中島　俊明 |
| 事業名 | 北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト |
| 事業実施期間 | 契約日～令和８年（2026 年）３月 31 日 |
| モデル | 先進的取組　／　連携体制強化<br>（□で囲むこと） |
| 連携体制を構築する産業分野 | ６次産業（農業、商業、水産）、半導体関連（工業）、<br>洋上風力発電（工業、水産）、観光 DX（商業）、<br>スマート農業（農業）、スマート水産業（水産）　など |
| 拠　点　校　名<br>※学校名の末尾にかっこ書きで、実施対象の学科を記載<br>○○高等学校（農業科）等 | 北海道更別農業高等学校（農業科）<br>北海道室蘭工業高等学校（工業科）<br>北海道旭川商業高等学校（商業科）<br>北海道小樽水産高等学校（水産科）<br>（計　４　校） |
| 連　携　予　定　の<br>産　業　界　等　名<br>（団体名・企業名等） | ・北海道経済連合会<br>・公益財団法人北海道科学技術総合振興センター<br>・一般社団法人北海道農産協会<br>・北海道産業教育審議会 |

## ２．事業概要等

### （１）産業界と専門高校の連携体制に関する申請者の現状と課題

○　マイスター・ハイスクール事業（以下「本事業」という。）の指定校２校（北海道静内農業高等学校（以下「静内農業高校」という。）、北海道翔洋高等学校（以下「厚岸翔洋高校」という。））では、次のような成果があった。

①　生徒の地域産業への理解が深まり、地域のために貢献したいと考え行動できた生徒や、地域の産業に就職しようと考えた生徒の割合が増加。

②　馬産業やスマート水産業の分野で活躍する最先端の専門的知識や技術を有する職業人と連携するなど、これまで以上に人的ネットワークが広がり、高度化する専門的な知識や技術に対応した学びの提供を通じて、最先端の職業教育が充実。

○　一方で、道内の専門高校と産業界の連携については、次のような課題があった。

①　連携した取組が少ない

②　連携の進め方や配慮点が不明

③　ニーズや価値観が異なり連携が進みづらい

④　教員が多忙なため企業等との調整が不足

○　こうしたことから、次のような取組が必要である。

①　静内農業高校と厚岸翔洋高校が本事業に取り組んできた成果を北海道の強みとして生かし、両校それぞれの取組やノウハウを道内の専門高校に横展開

②　産業界と専門高校のサステナブルな連携体制の仕組みづくりの検討・実現

### （２）事業概要

・本事業では、指定校にマイスター・ハイスクール CEO が配置されたことで、高度熟練技能者による指導、企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的かつ体験的な学習活動が充実した。こうした連携体制による教育実践を踏まえ、北海道教育委員会に産学連携コーディネーターを配置することにより、都市部に所在する企業をはじめ、各地域の産業界等と専門高校を人的につなげることで、実践的な職業教育の充実を図る。

・企業を対象とした専門高校との連携に関する意向調査を実施し、謝金等が不要で出前授業等が可能な職業人をデータベース化した「産業実務家教員リスト」を作成し、専門高校で共有する。本リストは、専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係性をベースにしており、学校の実態や学科の特徴に応じた人的資源の活用を促進する。

・産業構造の変化に対応した教科指導や進路指導の充実を図るため、半導体関連産業や洋上風力発電、スマート農業・水産業や建設 DX などの職業理解に資する「おしごとガイドブック」を制作し、全道の中学１、２年生と高校１、２年生、経済団体等に配付する。

・専門高校の教員や企業、生徒を参加対象とした「産学連携シンポジウム」などのイベントを開催し、他校・他学科で実施している産業界等との連携・協働の取組を共有することにより、道内の各専門高校における職業人材育成システムの構築を促進する。

・上記(1)で示した課題の解決に向けて、産学連携コーディネーターを高校教育課に配置し、職業学科担当の指導主事と連携しながら、道内の専門高校を支援する「北の専門高校プラットフォーム」の創設を目指す。産学連携コーディネーターの主な役割は、本プラットフォームの柱である次の３点とする。

① 人的ネットワークの構築
② 産業実務家教員リストの作成と活用促進
③ 新たな産業や専門高校への理解促進

**（3）事業目的**

・本道においては、次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入、農業や水産業のスマート化など、産業構造が変化しているため、産学連携コーディネーターが、産業界と専門高校を人的につなげ、先進的な取組を直接学べる連携体制を強化する。
・地域産業における人材育成の核となる専門高校の役割として職業人を育成するため、全道の専門高校における産業界等と連携した実践的な職業教育を推進する。
・研究２年目では、静内農業高校や厚岸翔洋高校が、地方公共団体や産業界と連携・協働体制を整える中で得たノウハウを、道内の４圏域に設定した拠点校を中心として実践し、その成果をさらに道内の専門高校に普及することで、全ての専門高校における産業界との連携を充実させる。

**（4）事業実施体制**

●事業運営委員会や、拠点となる専門高校、連携する産業界の体制について記載すること

・管理機関となる北海道教育委員会は、経済団体、自治体、教育機関等の有識者で構成し、産学連携に係る課題解決に向けた協議を行う事業運営委員会「ONE-TEAM コミッティ」を設置し、静内農業高校や厚岸翔洋高校が構築した職業人材育成システムを全道の専門高校に横展開するため、指定校２校の取組を参考にした拠点校の実践事例を専門高校へ発信する仕組みを構築する。
・産学連携コーディネーターは、専門高校における出前授業や長期間のインターンシップ、企業見学等の取組の充実を図るため、管理機関と連携しながら、地域の企業等に協力を要請し、各産業に従事する職業人をデータベース化した「産業実務家教員リスト」を作成して、各専門高校における効果的な活用を促進する。

●管理機関の役割について

・「ONE-TEAM コミッティ」を設置・運営することで、産業界と専門高校との連携・協働に係る課題を整理し、解決に向けた方策を立てるほか、専門高校におけるコンソーシアムの構築に向けた支援、教員研修やイベントの企画提案、事業の円滑な実施に向けて評価・改善等を行う役割を担うことで、専門高校における職業人材育成システムの構築を支援する。
・産学連携コーディネーターを配置し、職業に関する教科を担当する指導主事とともに学校を支援する。

**（5）事業の進捗管理、成果の検証、改善等の仕組み**

・事業の進捗及び目標達成の状況は「ONE-TEAM コミッティ」で行い、評価・改善の方向性等について協議する。
・検証は年度末に行い、PDCA サイクルを機能的かつ効果的に実行する。
・事業内容は、北海道教育委員会のウェブページや教員を対象とした各種研究会等において普及・啓発するほか、産業教育関係者に向けた通信「ONE-TEAM ニュース」を発行するなど、学校関係者や産業界関係者に広く周知するとともに、意見等を募集して本事業の改善に資する。

**●達成目標及び指標①（※数値や数量で表すことができる定量的指標が望ましい）**

○　達成目標

　コンソーシアムを構築することや、産業実務家教員による指導等を教育課程に位置付けることなど、産業界との連携・協働体制を組織的に構築できている専門高校の割合

○　指標（道立専門高校全て）

　Ｒ５→　6%（４校÷56 校≒７%）※現状値

　Ｒ６→ 12%（８校÷56 校≒14%）※目標値（令和７年５月集計予定）

　Ｒ７→ 50%（28 校÷56 校＝50%）※目標値（令和８年５月集計予定）

**●達成目標及び指標②（※数値や数量で表すことができる定量的指標が望ましい）**

○　達成目標

　産業界の有識者を招いた協議等の機会を設けて、地域の人的・物的資源を活用しながら教育活動を行っている専門高校の割合

○　指標（道立専門高校のうち農業科・工業科・商業科・水産科）

　Ｒ５→ 54%（29 校÷54 校≒54%）※現状値

　Ｒ６→ 61%（33 校÷54 校≒67%）※目標値（令和７年５月集計予定）

　Ｒ７→ 91%（49 校÷54 校≒93%）※目標値（令和８年５月集計予定）

**（６）成果発信の取組**

・道教委ウェブページにおける情報発信
・道内の専門高校を卒業して産業界で活躍している先端技術者を紹介した「おしごとガイドブック」の制作（道内の中学１、２年生及び高校１、２年生、経済団体等に配付）
・各種教員向け研修会
・産学連携シンポジウム（産業界関係者・教員等対象）
・各職業学科の教員を対象とした研究会等における情報提供
・北海道産業教育審議会への情報提供
・産学連携カンファレンス（産業界関係者・教員等対象）
・北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ（産業界関係者・教員等対象）
・専門高校魅力発信ミーティング
・産業教育関係者に向けた通信「ONE-TEAM ニュース」の発行

## ３．令和７年度実施計画

**（１）事業運営委員会の構成**

| 氏名 | 所属・職 | 役割 |
|---|---|---|
| 月館　海斗 | 株式会社すみか・代表取締役 | 産学連携コーディネーター |
| 岡部　善平 | 小樽商科大学・教授 | |
| 百瀬　康弘 | 北海道経済連合会・常務理事 | |
| 和田　順子 | 公益財団法人北海道科学技術総合振興センター・事業戦略統括部コーディネーター | |
| 山上　朝香 | 北海道農政部生産振興局技術普及課･首席普及指導員 | |

| | | |
|---|---|---|
| 矢野　伸一 | 北海道経済部産業振興局産業振興課スタートアップ推進室・参事 | |
| 桑名　真人 | 一般社団法人北海道農産協会・てん菜部長 | |
| 室伏　　諭 | 北海道更別農業高等学校・校長 | 拠点校（道東） |
| 鈴木　康礼 | 北海道室蘭工業高等学校・校長 | 拠点校（道南） |
| 藤田　和秀 | 北海道旭川商業高等学校・校長 | 拠点校（道北） |
| 亀山　喜明 | 北海道小樽水産高等学校・校長 | 拠点校（道央） |

**事業運営委員会が本事業において果たす役割**

・持続可能な産学連携の推進や、生徒が新たな産業や先端技術を活用した働き方について理解を深めることを目的に必要な援助を行う。
・職業人をデータベース化する「産業実務家教員リスト」の作成に当たって助言する。
・教員向け研修や産学連携に資するイベント等の計画や運営に当たって助言・援助をする。
・本事業の評価・改善を行う。

**（２）事業運営委員会における検討事項**

・専門高校等の課題を把握し、学校と企業とのコーディネートの在り方を検討
・専門高校と地域（企業、自治体等）におけるコンソーシアムの構築を推進
・専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方を検討
・デジタル人材、グリーン人材を育成する教育体制の在り方を検討

**（３）事業項目別実施期**

| 事　業　項　目 | 実施期間（令和７年４月～令和８年３月） | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 事業運営委員会（ONE-TEAM コミッティ） | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | |
| 拠点校ミーティング | ○ | | | | | | | | | | | |
| 産学連携シンポジウム（４会場） | | | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 職業学科理解推進ガイド（改訂版） | | | ○ | | | | | | | | | |
| 専門高校魅力発見ミーティング（オンライン） | | | | ○ | | | | | | | | |
| 教員向けオンラインセミナー（半導体、洋上風力、建設 DX、観光、スマート農業・水産業） | | | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| 専門高校ユナイテッド | | | | | | | ○ | | | | | |
| ONE-TEAM フォーラム（４会場） | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 北の専門高校Ｓ７サミット | | | | | | | | | | ○ | | |
| 産業実務家教員リスト 2.0 | | | | | | | | | | | | ○ |
| 北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ | | | | | | | | | | | ○ | |
| ONE-TEAM ニュースの発行 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| どさんこプラザ札幌店での販売会 | | | | | | | | | ○ | | | |
| ＜詳細＞※項目別の実施計画詳細 | | | | | | | | | | | | |

○　事業運営委員会（年３回）
［５月］令和７年度事業計画に関する各取組の充実に向けた具体的な検討、拠点校（４校）からの情報発信、「産学連携シンポジウム」の検討など
［10 月］「専門高校魅力発見ミーティング」の評価、「専門高校ユナイテッド」や「ONE-TEAM フォーラム」の検討など
［２月］「北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ」の検討、事業終了後に向けた検討など
○　拠点校ミーティング
拠点校による事例発表や管理機関による事業概要の説明等を通じて、拠点校の役割についての共通認識をもつ。
○　産学連携シンポジウム
拠点校ごとに参集で開催し、各圏域における専門高校の教員・生徒、産業界関係者が産学連携の意義や方法等を認識する。（４会場）
○　職業学科理解推進ガイド（改訂版）
令和６年度に作成したガイドブックを改訂し、全道の中学校等に配付する。
○　専門高校魅力発見ミーティング
中学生保護者や中学校教員を対象にしたイベントを開催し、専門高校の価値や魅力を広く発信するほか、専門高校と中学校の連携による成果等を普及・啓発する。（オンライン）
○　オンラインセミナー
新たな産業や働き方に加え、専門高校の取組や魅力などを、中学校教員や高校教員、産業界に広く発信する。（洋上風力発電、半導体、スマート農業・水産業、観光、建設 DX 等）
○　専門高校ユナイテッド
先進事例を有する他県の専門高校と道内の専門高校がタッグを組み、生徒や教員による協議等を行い、日本の専門高校 ONE-TEAM を実現するきっかけとする。（オンライン）
○　ONE-TEAM フォーラム
専門高校の教員や産業界の関係者を対象に、拠点校ごとに参集で開催する。拠点校における職業人の指導による実践的な授業等を視察した上で、地域の魅力やニーズを捉えて、意見交換を実施する。（４会場）
○　北の専門高校Ｓ７サミット
７つの職業学科の代表者や産業界関係者、産学連携コーディネーターなどが一堂に会し、産学連携に資する講演を実施するほか、北海道産業教育審議会建議（令和７年 11 月）の概要を共有した上で意見交換等を実施する。
○　産業実務家教員リスト 2.0
専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係性をベースに、謝金等が不要で出前授業等が可能な職業人をまとめた「産業実務家教員リスト」（令和６年度作成）をアップデートして専門高校に配付し、持続可能な人的・物的資源の活用を促進する。
○　おしごとガイドブック 2025
専門高校の価値や魅力の紹介、中高連携や産学連携の好事例に加え、専門高校を卒業後に先端技術者として活躍している職業人にスポットを当て、仕事の内容ややりがいを紹介したパンフレットを作成し、全道の高校１、２年生及び中学１、２年生、経済団体等の関係者に配付する。
○　北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ
２年間の事業成果を共有し、次年度以降のサステナブルな産学連携につなげるイベント

を開催する。（１会場）

**＜達成目標＞**

・コンソーシアムを構築することや、産業実務家教員による指導等を教育課程に位置付けることなど、産業界との連携・協働体制を組織的に構築できている専門高校の割合を 50%とする。（道立専門高校 56 校）

・産業界の有識者を招いた講義や協議等の機会を設けて、地域の人的・物的資源を活用しながら教育活動を行っている専門高校の割合を 91%とする。（道立専門高校のうち農業科・工業科・商業科・水産科のある 54 校）

・中学校教員を対象として令和６年度に開催した「職業学科理解促進セミナー」について、参加対象を中学生保護者まで拡大した「専門高校魅力発見ミーティング」として開催し、参加者数を令和６年度から２倍とする。

**（４）管理機関における取組**

○　ONE-TEAM ニュースの発行

産学連携コーディネーターや拠点校の取組、先進的な連携事例など、本事業に関する情報をまとめた通信を作成し、専門高校や産業界に配付する。（年９回）

○　どさんこプラザでの販売会

道内の農業高校や商業高校、水産高校等が企業と連携して開発した商品を、北海道のアンテナショップで販売することなどを通じて、専門高校の生徒同士が交流を深めるとともに、６次産業化を体験する。

○　専門高校魅力発見ミーティング

中学生保護者や中学校教員を対象にしたイベントを開催し、専門高校の価値や魅力を広く発信するほか、専門高校と中学校の連携による成果等を普及・啓発する。